

図書館で勉強する方は多数おられると思いますが、意外と読書をしている方は少ないのではないのでしょうか？家では集中して勉強できない私も、図書館を課題や試験の勉強をする為に利用しています。しかし、勉強を長時間していると、集中力も切れて疲れてきますよね？そこで、私は勉強の合間に閲覧室の本を読んで休憩をしています。普段、勉強だけしていると周りの本には目を向けにくいと思いますが、探してみると面白い本を多く発見することができます。例えば、第一閲覧室にあるベストセラーコーナーには、ベストセラーと言うだけあり、色々と興味深い本がまとめて置いてあります。そして、座りっぱなしで疲れた人は、立ち読み気分で雑誌コーナーの各雑誌をパラパラと見てみるのも良いかと思います。それぞれの本や雑誌は定期的に新しく配架されるので、時々確認してみてください。

また、今何冊くらい借りていて、返却日はいつだったかを確認したいときはありませんでしたか？今年の3月から「京都外大 My Library」が始まり、返却日などが図書館ホームページ上で確認できるようになりました。図書館で無料で登録できるので是非利用してみてください。私も利用していますが、今迄借りた本のタイトルが確認できたり、図書館に行かなくても貸出中の本の予約ができるのでとても便利です。このサービスで、より有意義に図書館を利用してみませんか？

おおはし しんや

本学図書館の貴重書

Catholicon, Strasburg, [1470]

バルブス 『カトリコン』

BALBUS, Johannes



カトリコンとは、本来は「万能薬」の意味であるが、その意味とは別に、ラテン語の語彙集、百科事典等の意味でも用いられるようになった。原本は、ドミニコ会の修士でジェノヴァ(Genova) 生まれのヨハネス・バルブス (Johannes BALBUS)が、多くの資料に基づいて1286年に編纂したものである。このカトリコンは*Summa Grammaticalis quae vocatur Catholicon* が正式の書名であるが、一般に*Catholicon*と呼ばれている。ラテン語文典に神学事典が付されたものであり、非常に多くのマニュスクリプト(写本)が残っていることや、印刷術が発明されてから数多くの部数が発行されたことから、大変好評だったことが推察される。

カトリコンが初めて印刷されたのは1460年にマインツ(Mainz)で、活版印刷術の発明者ヨハン・グーテンベルク(Johann GUTENBERG)によってなされたとされている。

本書は、グーテンベルクの助手を務めたヨハン・メンテリン(Johann Mentelin) の娘婿であるアドルフ・ルッシュ(Adolf RUSCH) がシュトラスブルク で印刷したものである。

なお、装丁はイギリス19世紀初期のもので、表と裏両方の表紙の芯に使われている檜の薄板表面に、教会の窓の形を浅く彫り、紺色のモロッコ皮を張った上に尖塔形や鉤針編みのデザインを金箔で型押しした豪華版である。

原寸 48.5×33cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜萃、加筆